

教えて! ホノルル

～近代サーフィンの父、
デューク・カハナモク編～

【秘書広報課姉妹都市担当】



姉妹都市ホノルルと言えば、ワイキキ・ビーチですね。

そのシンボルとなっているのが「デューク・カハナモク」の銅像。みなさんもテレビ番組などで一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

今回は、「近代サーフィンの父」とも呼ばれるデュークについて紹介します！

デューク・パオア・カハナモクは1890年にオアフ島で生まれ、ホノルルの壮大な海のもとで育ち、その後、水泳選手としてオリンピックで五つものメダルを獲得した活躍により、世界的に有名となりました。

水泳選手としても有名なデュークですが、サーフィンが現在ののように世界で知られるスポーツとなったのも彼の功績の一つです。

アメリカ本土やオーストラリアなどで10年以上の歳月をかけてサーフィンを紹介したことで、サーフィンの人気が広まりました。1950年代にそれまでの木製だったサーフボードに代わり、合成素材が登場したことで、多くの若者がサーフィンを気軽に楽しめるようになりました。

デュークのような人たちがいたからこそ、私たちはビーチカルチャーを楽しめるのかもしれませんね。



1990年 生誕100年を
記念して作られた銅像